

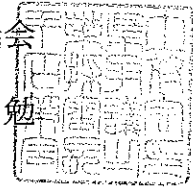


平成22年11月5日

千葉県知事 森田 健作 様

千葉県土石採取対策審議会

会長 渡 邊 勉



富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取に係る

土石採取対策審議会における審議結果について（報告）

平成21年1月8日付け保安第4210号をもって貴職から開催要請のあった富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取について、別添のとおり審議結果を報告いたします。

# 報 告 書

(富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取について)

平成22年11月

千葉県土石採取対策審議会

## 報告に当たって

富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取に係る審議結果の報告にあたり、土石採取対策審議会会長としての所見を申し上げます。

この度、富津市鬼泪山国有林104・105林班他からの山砂採取について、知事からの開催要請により土石採取対策審議会で審議したところです。今回審議対象となりました富津市鬼泪山国有林104・105林班に堆積する山砂は、高品質で有望な砂利資源であることは周知のことです。また、自然環境豊かな地域で人為的に開発や建設工事をする場合は、環境問題を避けて通ることのできない時代でもあります。このような時代に、環境と調和しながら鬼泪山国有林の砂利資源をいかに活用していくかが問われているわけです。

今回の審議会での議論を踏まえますと、地元には密接な意見も多々ありましたが、砂利需要が低迷している現状や、県の発展に関連の深い公共性の高いプロジェクトが見当たらないことから、現時点では県の国有林からの山砂採取に係る基本的な考えである「本県の発展に関連の深い公共性の高いプロジェクトに使用する場合のみ認め、その際には地元事業者の育成に配慮する」を見直すまでの状況には至っていないものと思われれます。

また、山砂採取のためにひとたび山を掘削しますと、地盤の改変により、地盤・森林・景観など今までバランスの取れていた自然環境が崩れることになり、元の環境に回復することは至難の業となります。従って、それに見合うような環境保全をやっていくことが非常に重要と考えます。

特に我々の世代、孫、ひ孫の代のみならず、後世にわたって環境との共存を図り、持続可能な自然や社会を築いていく方策が求められており、資源小国の我が国にとって、鬼泪山国有林の山砂は大変貴重な天然資源であることから、鬼泪山国有林からの山砂採取については、早急に結論を出すべきものではないと考えます。

結びに、本報告書は砂利採取が水道水源である地下水や湧水に及ぼす影響、森林がもつ水源への涵養機能などの多面的な機能、砂利洗浄排水の影響、環境アセスメント、砂利資源の状況等の項目について、各委員それぞれの立場からのさまざまな意見を反映したものであることを申し添えます。

平成22年 11月 5日

千葉県土石採取対策審議会

会 長 渡邊 勉

I 富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取に係る土石採取対策審議会の開催状況

No.	開催日時/会場	議題等
1	平成21年1月27日(火) 13:30~14:35 千葉県自治会館	1 会長・副会長の選出 2 富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取について (1) 請願内容 (2) 国有林からの山砂採取の経緯 (3) 審議会の過去の答申内容 等
2	平成21年11月17日(火) 13:30~16:00 富津市民会館 現地(富津市桜井地先等)	1 会長・副会長の選出 2 富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取について 現地視察 (国有林104・105林班、富津市上水道水源 等)
3	平成22年2月9日(火) 13:30~16:00 三井ガーデンホテル千葉	1 富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取について (1) 国有林104・105林班開発事業計画の概要 (2) 鬼泪山国有林からの山砂採取に反対する見解 (3) 環境影響評価 等
4	平成22年5月20日(木) 13:15~15:03 三井ガーデンホテル千葉	1 富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取について 総括議論 等

## II 富津市鬼泪山国有林104林班他の山砂採取に係る土石採取対策

### 審議会における委員の主な意見

本書は、富津市鬼泪山国有林104林班他からの山砂採取に伴う地下水・湧水等の水源への影響、森林の保全・再生、環境影響評価、地場産業の振興及び砂利資源の需給状況等について、審議会での各委員の専門性を持った活発な意見・議論を項目毎に整理し、取りまとめたものです。

#### 1 地下水・湧水等の水源への影響について

富津市鬼泪山国有林104・105林班の山砂採取に伴う地下水・湧水への影響については、関山用水などの現地視察を踏まえ地形図・地層図や過去の環境影響評価書等により審議したところ、以下の意見がありました。

- (1) 地下構造に依存するところが大きい地下水の問題は、現地を見ても地下の様子は直接見ることはできず、ボーリング調査等をして地層構造や地耐力などを把握する必要がある。
- (2) 現地視察した関山用水については、地形図から予測されるよりは流量が多い。
- (3) 地下水・湧水は山砂採取以外にも気象条件などの影響を受け、また、本国有林の場合、民有林の多くの場合よりも砂利採取後の法面勾配は緩やかなので、雨水の浸透量が多くなると思われる。
- (4) 鬼泪山国有林104・105林班は粗めの砂や礫からなる市宿層で出来ており、この地層は北東方向に延びるとともに北西方向に4度から6度傾いて非常に水を透し易い。
- (5) 地下水の影響調査のシミュレーションを行う場合は、十分な調査範囲をとり3次元で行うのが適当である。

#### 2 森林の保全・再生について

過去の国有林砂利採取跡地の森林復元状況や富津市鬼泪山国有林104・105林班に隣接する砂利採取場跡地の現況の視察を踏まえて、森林の保全や砂利採取跡地の緑化再生について審議したところ、以下の意見がありました。

### (1) 現地視察について

- ア 100 林班については、40 数年経ってようやく元の森林に戻っており、植栽による森林復元には非常に時間がかかる。
- イ 104 林班については、植林後の年数に応じてしっかり育っているという意見の一方、国有林採取跡地は民有林に比べて手間をかけて緑化しているが立派な森林になるにはやや不安があるとか、木は低く森林には復元していないとの意見もあった。
- ウ 本国有林の場合は民有林の多くの場合よりも砂利採取終了後の法面勾配が緩やかなので、しっかりと森林として復元できるとの意見に対しては、大きな樹木に育つか育たないかは、法面勾配というよりも土壌の影響の方が大きいとの意見があった。

### (2) 緑化・植林の技術について

- ア 山砂採取が続けられるように環境に配慮した植栽、法面の保護等の方策を考えていくべきであるとの意見に対して、外から見て緑に覆われているという状態にもっていくのはそれほど困難なことではないが、砂利採取跡地での森林の復元は下が砂地のため保水力が低く木が枯れやすいため、森林の土壌を維持していくことが重要であり、これからも緑化技術の確立を図って行く必要があるとの意見があった。
- イ 事業者から提出された事業計画書については、小区画に区分して砂利採取が終了した部分から順次植栽緑化を進めていくには、この計画書のままではなく浸透池や搬出路の配置や移動などを検討する必要があると思われる。

### (3) 森林の持つ機能について

森林が持つ水源涵養機能や山崩れを防止する機能、木材、その他の資源を供給する機能などの多面的機能の便益を金銭で換算できるものについての試算を国有林 104・105 林班に当てはめると年間大体 4 億円あまりになるが、金銭で換算できないさまざまな機能もある。

### (4) 森林からの砂利採取について

民有林から無秩序に採取するよりはまとめて国有林から採取する方が環境への影響は少ないとか、計画予定地の 104・105 林班は資源の循環利用林に指定されていることから砂利採取は可能だとの意見がある一方、千葉県には森林が少なく千葉県の発展に関連の深い公共性が高いプロジェクトが見当たらないという現況をあわせると、国有林を開発することについては慎重に考慮しなければならないとの意見があった。

## 3 環境影響評価等について

地下水・湧水や森林復元などの環境への影響については、過去の東京湾横断道路建設時の環境影響評価書や富津市が行った地下水位及び湧水量の調査報告書などにより審議したところ、以下の意見がありました。

(1) 環境影響評価について

ア 砂利採取が環境へ及ぼす影響は、富津市鬼泪山国有林 104・105 林班周辺住民にとっても重大関心事であることから、地下水や湧水などの水道水源への影響や森林の保全等について、環境影響評価をしっかりとやり、その結果により計画が妥当か見直すかを判断すべきである。

イ 環境影響評価は事業者が実施するが、環境影響評価を行う場合は、事業者は住民の意見をしっかりと聞いていただきたい。

ウ 環境影響評価を行うにはかなりの費用がかかり、事業者の資金が十分でなければ事業者が出来る範囲での環境影響評価になってしまい、必ずしも実態に沿わない結果になる可能性があるため、事業者の環境影響評価資金の捻出方法を明らかにすることは大事である。

(2) 砂利採取が影響を及ぼす環境全般について

ア 砂利採取のためにひとたび山を掘削すれば元の山には戻らないので、山砂採取する場合には事前に十分に環境への影響を見極め、今までバランスの取れていた自然環境に見合う環境保全や景観対策などを実施するのが重要である。

イ 我々の世代、孫、ひ孫の代のみならず、後世にわたって持続可能な社会を築いていくために、現代に生きる我々が環境に対して責任ある行動を取っていかねばならない。そのためには鬼泪山国有林からの山砂採取について早急に結論を出すべきではない。

(3) 個々の環境項目について

ア 砂利洗浄に伴う排水や採取場からの泥水については、現時点では漁業者が被害を受けて困っているという実態はない。

イ 砂利運搬ダンプカーの粉じんについては、砂利採取業界やダンプカー業界でも防止対策を徹底するよう取り組んでおり、昔と比べかなり改善されている。

ウ 国有林では山砂採取跡地は森林に復元することとされており、産業廃棄物や建設残土で埋め戻すということはありません。

(4) その他

ア 計画区域は鬼泪山の一部であり鬼泪山全体を掘削して平らにするということではないことを正確に理解して欲しい。

イ 当該国有林 104・105 林班に隣接する砂利採取跡地が裸地のままになっている理由は、当初は住宅団地等の開発用地とする計画だったためである。

## 4 地場産業の振興について

産業としての砂利採取業の振興については、以下の意見がありました。

- (1) 砂利採取業で生計を立てている県民も多くいるので、県は砂利採取業を地場産業として位置付けるべきである。



- (2) 砂利採取跡地については森林復元以外の利用方法も考え、砂利採取業の育成・振興を図るべきである。
- (3) コンクリート骨材として砂利を必要とする地域の公共工事は多々あり、これらの工事についても県の発展に関連の深い公共事業に認めて、鬼泪山国有林 104・105 林班からの砂利採取を認めるべきである。
- (4) 当該国有林 104・105 林班に隣接する砂利採取跡地を早期に有効活用することは千葉県の発展につながると思われる。

## 5 砂利資源の需給状況について

砂利資源の需給状況については、委員からの意見や事務局から提出された資料をもとに審議したところ、以下の意見がありました。

### (1) 砂利採取業界

- ア 年々、砂利採取場や砂利採取業者が減っているが、その理由として砂利資源の枯渇化が考えられ、砂利採取を継続していくには資源の確保ということが今後の最大のテーマになる。
- イ 今後もコンクリート用細骨材資源を安定的に供給することは、砂利採取業界の社会的な使命である。
- ウ 鬼泪山の砂利はコンクリート構造物の骨材として最適で、他では採れない高品質で貴重な砂利である。したがって、有効活用すれば県や地元の利益になるので、採取できることを望む。

### (2) 砂利資源の確保について

- ア 県内では山砂しか選択肢がないといわれるが、千葉県は森林も山も大変少なく、山砂は採り続ければ最終的にはなくなり枯渇するので、山砂や国有林からの砂利採取についてどう位置付けるか議論しなければならない。
- イ 石を砕く砕砂では採算性が合わないという業界の意見は理解できるが、山砂採取については見つめ直す必要がある。
- ウ 県内に山砂以外の海砂・陸砂が全くないからといって、山砂を採取することにはならないし、千葉県の公共物すべてに千葉県産の砂を使わなければならないのかという議論もある。工夫、研究して山砂に代わるものを考えなければならない。

### (3) リサイクル骨材について

- ア 今はリサイクルの時代なので、リサイクル骨材が利用できればそれに越したことはない。
- イ 我が国の資源は限られており、今後コンクリート建築物の寿命が来て、解体・建替工事が盛んになれば、建築物の解体で発生するコンクリート塊を有効利用しなければならない。また、天然山砂以外の鉄鋼スラグといったものなどにも注目していただきたい。